

音楽科学習指導案

指導者 田口 千紗都

- 1 日時 平成27年7月3日(金) 1校時
- 2 学級 1年3組 男子17名 女子16名 合計33名 北校舎2階第1音楽室
- 3 題材名 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫しよう
(教材名「浜辺の歌」)

4 題材について

本題材は、学習指導要領に示された指導事項のうち、第1学年の内容「A 表現(1) ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」、共通事項「(1) アの、音色、リズム、旋律、強弱、構成」について指導を行うものとする。A表現(1)の指導事項では「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現したい思いや意図をもって表現を工夫して歌う能力を育てる」ことをねらいとしている。「歌詞の内容を感じ取る」ということは、この歌詞が何を言っているのかが分かり、どんな情景なのかのイメージをもつことにつながっていると考えられる。また、曲想とは「その音楽固有の表情や味わいのこと」を指す。本教材は、歌唱共通教材の一つであり、日本の自然の美しさや詩の情感、歌詞と旋律のつながりを感じ取るには適した教材である。歌詞の内容、波を彷彿させる伴奏形からも、様子が思い浮かべやすく、曲想を感じ取りやすいといえる。

生徒たちは、鑑賞の授業で、音楽を聴いて「どんな感じがしたか」「それはどんなところからなのか」を自分なりに考え、根拠をもって言葉でまとめることができるなど、要素を聴きとり、曲想を感じることができている。歌唱では、校歌の学習を通して、歌詞の内容を理解し、そこに思いを込めて歌うことの大切さを学んできているが、歌詞の内容を音楽表現に生かす力はまだ十分育っていない。

そこで、本題材では、この曲がどんな曲なのか、歌詞の内容を理解し、情景のイメージを創りながら想像させることで意欲を高め、音楽を形づくっている要素やその働きを捉え、その捉えたものをもとに表現を工夫させていく。すなわち「表現したい思いや意図をもち、要素の働かせ方を試行錯誤し、よりよい表現の方法を見いだして歌う」ことを中心に指導を行い、伴奏と主旋律の一体感を感じさせながら、それを表現するにふさわしい歌い方について考えさせていく。波のような伴奏形とそれに寄り添う旋律線に着目させ、どのように歌うと表現できるのか、歌い方の工夫をさせたい。「この曲がどんな感じがするか」を基に、楽曲の特徴と照らし合わせながら、どう歌うのが良いのかを自分たちで考え、比較したり、色々な方法を試したりする中で、より良い歌い方を探っていきたい。

5 指導と評価の計画(別紙)

6 本時の達成目標

| | |
|--------------|--|
| 音楽への関心・意欲・態度 | |
| 音楽表現の創意工夫 | 「浜辺の歌」の、音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞や伴奏が表す情景や心情、曲の表情や味わいを感じ取って「浜辺の歌」にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて、思いや意図をもっている。 <生徒の記述例> <ul style="list-style-type: none">・16分音符にスピードを付けて歌うと良い。そうすることで、波が寄せて返す感じが歌からも伝わってくる。・3段目は、4小節で一つの大きなフレーズになっている。歌詞も自然のダイナミックな様子を表しているの、声を遠くまで響かせるようにのびのびと歌うとよい。 |
| 音楽表現の技能 | 「浜辺の歌」の、音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞や伴奏が表す情景や心情、曲の表情や味わいを感じ取って、「浜辺の歌」にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。 <生徒の歌唱例> <ul style="list-style-type: none">・旋律の16分音符にスピード感をつけて歌っている。・3段目は、息をたっぷり使い、伸びやかな声で広がりをもって歌っている。・4段目は、歌い納めるように、しみじみと歌っている。 |
| 鑑賞の能力 | |

7 本時の指導の構想

(1) 本時のねらい

本時は、評価規準の「音楽表現の創意工夫」の音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞や伴奏が表す情景や心情、曲の表情や味わいを感じ取って「浜辺の歌」にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて、思いや意図をもっている。」を主にねらったものである。

(2) 「論理の意識化を図る学習活動」にかかわって

【考えがいのある課題設定】

学習課題を『「浜辺の歌」』の特徴を生かして歌うにはどうすればいいか」と設定する（2. 学習課題を把握する。）。課題解決の基になるのは、「音色」「リズム」「旋律」「強弱」「構成」である。これについては、導入のところで確認する（1. 「浜辺の歌」を歌い、前時で気付いた特徴を確認する。）。

【「論理の思考型」を用いた言語活動】

特に、帰納的思考を用いて考えさせたい。

個人で表現の工夫を発表しあった後、全体で共有するときに、「～から、～である」（「～を～することで特徴を生かすことができる。」）という形を用いて表現の工夫について話せるようにする（5. 考えを全体で共有する。）。

【かかわり合い】

本時でのかかわり合いは、個人で考えた工夫を発表し合う場である（5. 考えを全体で共有する。）。ここでのねらいは、他者の表現方法とその根拠を聴くことで、歌い方の工夫には様々な表現方法があること知る。また、みんなでいくつかの方法を試すことで他者の考えを共有する。

【自己評価活動】

自己評価活動を行う（6. 自己評価を行う。）。

「浜辺の歌」の学習を通して、分かったこと・感じたことをまとめる。授業を通して、自分が学んだことやかかわり合いを通して学んだことの両面から書けるようにしたい。また、自分の考えや工夫したことがどうだったのかを振り返り、次の学習への目標をもたせるようにしたい。

8 本時の展開

| 段階 | 学習活動 | 教師の指導・支援 | 評価の観点・方法 | 教材・教具等 |
|---|---|---|---|---------------------------------------|
| 導入 15分 | 1. 「浜辺の歌」を歌い、前時で気付いた特徴を確認する。 2. 学習課題を把握する。 | 1. 「浜辺の歌」を歌い、この曲のイメージやどんな感じがするか、また旋律の特徴を前時の板書を基に確認する（「音色」「リズム」「旋律」「強弱」「構成」について）。 2. これらのイメージを歌で表現するにはどうすれば良いのかを考えたい、という意欲をもたせる。 | | ・紙板書 ・拡大楽譜 ・学習プリント ・紙板書 |
| 展開 25分 | 「浜辺の歌」の特徴を生かして歌うにはどうすればよいだろうか | | | |
| | 3. この曲の特徴から、工夫できそうなことを考える。 ア 強弱について イ 拍子について ウ 旋律線の特徴 エ リズムの特徴 4. どのような工夫が有効なのか、自分が試行錯誤したことの中から有効と思ったことを、歌って試しながらまとめる。 【自己決定】 5. 考えを全体で共有する。 【かかわり合い】 | 3. 個人で考えさせてから、全体で共有する。また、教師の方からもヒントを投げかけ、どう工夫したら良いかをみんなで試してみる。 ・出だしの息を吸うときは、曲の雰囲気に合わせて、深く、ゆったり吸うと良い。 ・細かい音符にスピードを付ける良い。 ・三段目は一息で歌いきるつもりで、伸びやかに歌う。 4. 帰納的思考「～から～ということが導き出せる」という形を使い、文章をまとめさせる。（「～を～することで特徴を生かすことができる」） 途中、伴奏を弾き、自分の工夫を確かめたり、班ごとにピアノの周りに集め、全員に声をかけながらチェックする。 5. 全体で共有しながら、発表者の考えた工夫をみんなで歌ってみる。 生徒の記述・発表をもとにまとめる。 | 5. 【音楽表現の創意工夫】 知覚・感受したことを表現に生かすにはどのような工夫ができるか、発言したり記述したりしている。 <記述内容> A：的確で具体的な記述 C：話し合いの中から共感できるものを見つけて記述 5. 【音楽表現の技能】 自分が考えた工夫を、歌唱で表現しようとしている。 <歌唱> A：考えた工夫をより具現化している C：他の生徒の真似をしながら、歌い方を試す | ・学習プリント ・楽譜 ・紙板書 ・学習プリント |
| 終末 10分 | 6. 自己評価を行う。 7. 次時の学習内容を知る。 | 6. 本時の学習課題を振り返る。 | | ・学習プリント |
| 工夫できることを考え、色々試すことができた。細かい音符（16分音符）にスピードを付けて歌うと、旋律の波の形を生かせることが分かった。みんなの工夫で歌ってみるのも新鮮だった。違う曲を歌う時にも工夫を考えて歌えるようにしたい。 | | | | |

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|-----------|-------|
| 1年 音楽 | | 題材名 「浜辺の歌」の歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫しよう | | | 総時間 2時間扱い | |
| 学習指導要領の指導事項 | | | | 題材の目標 | | |
| A表現 ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。 〔共通事項〕 音色、リズム、旋律、速度、強弱、構成 | | | | 「浜辺の歌」の歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫する | | |
| 音楽への関心・意欲・態度 | | 音楽表現の創意工夫 | | 音楽表現の技能 | | 鑑賞の能力 |
| 「浜辺の歌」の歌詞が表す情景や心情、曲想に関心をもち、知覚・感受したことを言葉で表す学習に主体的に取り組んでいる。 | | ①「浜辺の歌」の、音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ②「浜辺の歌」の、音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞や伴奏が表す情景や心情、曲の表情や味わいを感じ取って「浜辺の歌」にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて、思いや意図をもっている。 | | 「浜辺の歌」の、音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞や伴奏が表す情景や心情、曲の表情や味わいを感じ取って「浜辺の歌」にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌おうとしている。 | | |
| 時 | 主な学習活動 | おおむね満足 (B) | 十分満足 (A) | 評価事例 | | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 歌詞から曲に対するイメージをもつ。 「浜辺の歌」を鑑賞し、どんな特徴があるか、考える。 旋律や歌詞から感じ取った曲のイメージをまとめる。 旋律を覚えて歌う。 気付いたことを話し合う。 | <p>関 「浜辺の歌」の歌詞が表す情景や心情、曲想に関心をもち、気付いたことを話し合ったり、発表したりする活動に主体的に取り組もうとしている</p> <p>創① 「浜辺の歌」の、音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、それを言葉で表すことができる。</p> | <p>・「浜辺の歌」の、音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、それを知覚したことで結びつけながら具体的に述べることができる。(複数の要素について、述べている。)</p> | <p>5 「浜辺の歌」を聴いたり歌ったりする中で、知覚・感受したことを言葉で表し、またそれを表現の工夫に結びつける場面。(創② 学習シート/技 歌唱表現)</p> <p>創② 「浜辺の歌」のイメージを表現するために、音色、リズム、旋律、強弱、構成から工夫できることを記述している内容を評価対象とする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>■おおむね満足 (B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16分音符のように細かいリズムにスピード感を付けて歌うと、波が寄せて返す感じが歌からも伝わってきて良い。 ・3段目は、歌詞も自然のダイナミックな様子を表しているの、声を遠くまで響かせるようにのびのびと歌うとよい。 </div> <div style="width: 45%;"> <p>■十分満足 (A)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16分音符のように細かいリズムのところに向かってスピードをつけて歌うと、自然な抑揚が付き、波の形が生かされる。 ・3段目は4小節でひとまとまりになっている。途中でプレスするが、気持ちをつないで、山を越えるように一息で歌うつもりで、のびやかに歌うと良い。 </div> </div> <p>・どのように歌えば良いか、要素と特徴を結び付けて書いている。</p> <p>【C：指導の手だて】 全体で話し合ったことから、自分の考えに近いものを選び、記入するように指導する。</p> | | |
| 2 本時 | <ul style="list-style-type: none"> 「浜辺の歌」を歌い、前時の復習をする。 前時ででたイメージや特徴を確認する。 歌い方を工夫する。 みんなで試して分かったことや気付いたことをもとに、自分の言葉で文章にまとめる。 考えたことを生かして歌唱する。 | <p>創② 「浜辺の歌」の、音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞や伴奏が表す情景や心情、曲の表情や味わいを感じ取って「浜辺の歌」にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて、発言したり、記述したりしている。</p> <p>技 「浜辺の歌」の、音色、旋律、速度、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞や伴奏が表す情景や心情、曲の表情や味わいを感じ取って「浜辺の歌」にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌おうとしている。</p> | <p>・「浜辺の歌」の、音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞や伴奏が表す情景や心情、曲の表情や味わいを感じ取って「浜辺の歌」にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて、より具体的に発言したり、記述したりしている。</p> <p>・「浜辺の歌」の、音色、旋律、速度、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞や伴奏が表す情景や心情、曲の表情や味わいを感じ取って「浜辺の歌」にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。</p> | <p>技 「浜辺の歌」の歌い方の工夫を実際に歌っている様子を評価の対象とする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>■おおむね満足 (B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16分音符のように細かいリズムにスピード感を付けて歌おうとしている。 ・三段目では、息を深く吸い、山を越えるように、のびのびと歌おうとしている。 </div> <div style="width: 45%;"> <p>■十分満足 (A)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16分音符のように細かいリズムにスピードを付けて歌ったり、旋律に合わせて抑揚を付けたりしながら歌っている。 ・三段目では、息を深く吸い、山を越えるように伸びやかに歌い、フレーズの最後を納めるように歌っている。 </div> </div> <p>・考えた工夫に沿った歌い方をしようとしている。</p> <p>【C：指導の手だて】 他の生徒の真似をさせながら、歌唱を試させる。</p> | | |